

引っ越し

犬は人につき、猫は家につく？

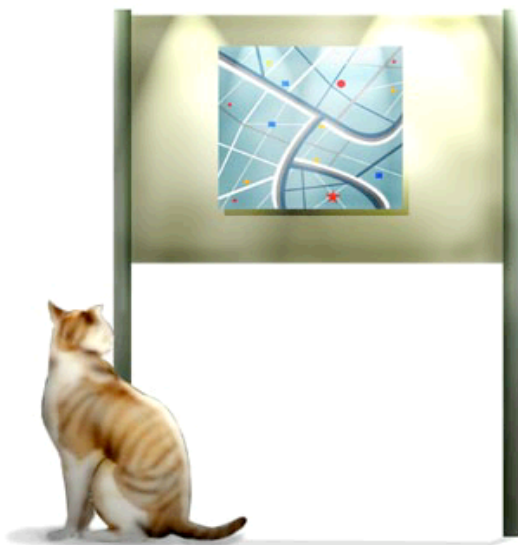
昔からよく「犬は人につき、猫は家につく」と言われます。しかしながら猫と飼い主との絆が、ますます強くなった今日では、この言葉が当てはまらないケースが多くなっているのではないのでしょうか？

この言葉が出来た背景として考えられることが2つあります。

ひとつは実際にかつての猫と人間の関係は希薄で、猫は本当に飼い主よりも家に深い愛着を感じていたということです。

おそらくこの言葉が生まれた頃には猫は自由に外出し、自分の住みかを含む周辺環境と密接にかかわって暮らしていたのではないのでしょうか。周辺の猫達とかかわりを持ち、場合によってはよその家で食事をもらったり、小鳥やねずみを取ったりしていたかもしれません。このような状況では猫が飼い主だけでなく、自分の家を含む周辺環境に強い愛着を持つと考えられます。

その意味では現在も外出しがちで、あまり飼い主との絆ができていない猫であれば、飼い主よりも家を選ぶ可能性もあると思います。



もう一つ考えられるのは、猫は実際には家よりも飼い主に深い愛情を持っていたにもかかわらず、猫の行動

がよく理解されていなかったために、我々人間が猫は飼い主よりも家に愛着があるのだと誤解していたかもしれないということです。

自由に外出する習慣のある猫が、引っ越し先でなれないうちに外に出たとします。猫には引っ越しの意味がわかりませんから、本能的に以前住んでいた家を探すでしょう。そのまま道が分からなくなって、帰れなくなってしまうかもしれません。前の家にたどり着いても飼い主がいなければそのまま野良猫になってしまうかもしれません。

また人間のルールでは新しい家は飼い主のもですが、近隣の猫達から見ると飼い主とともに引っ越してきた猫は侵入者です。新しい環境での縄張り争いに負けて新しい家に戻れなくなる事もあるでしょう。

放浪しているうちに、病気になったり事故にあって二度と家に戻れなくなる可能性もあります。

このようにいろいろな原因で猫が引っ越し先で姿を消すことが多かったために、猫が飼い主よりも家に愛着を持っていると誤解されたのではないかと推測できます。

私は犬であろうと猫であろうと飼い主と強い絆で結ばれていれば、家よりも人につくと思います。

引っ越し時の注意点

室内だけで飼われている猫では、飼い主との関わりが強く、近隣の猫同士の縄張りという点でも問題がありません。マンションからマンションへ同じ家具や寝具を持って移動するだけの引っ越しなら慣れるまでにあまり時間はかかりません。

ただしそのような場合でもほとんどの猫は、場所が変わると最初は食事をしなくなったり、排泄を我慢したり、押入やソファの下に隠れて出てこなくなったりします。

引っ越しに際しては、前の家で使っていた家具、敷物、猫用の食器等をできるだけ持って行ってあげるようにしましょう。また新居にも今まで同様に不安な時に隠れる場所が必要です。特に新しい環境に慣れるま

では安心して隠れることが出来る場所を確保してあげましょう。

猫が嫌いな、大きな物音のする引っ越し当日は、どこかで預かってもらい、部屋の中が落ち着いてから引き取りに行くのがよいでしょう。

外出する習慣のある猫では前いた場所に戻ろうとしたり、慣れない場所で迷子になってしまう場合もあります。従って引っ越してしばらくの間は決して外に出さないこと、新しい家に慣れた後も外に出す時には必ず迷子札をつけておきましょう。(引っ越しするしなにかかわらず、もしもの時のために迷子札は普段からつけておく事をおすすめします。)

また前述のように、猫は人間社会と全く異なるルールで生きているわけですから、近所の猫に侵入者として扱われる事になります。けんかによってひどい怪我をしたり、時にはその場所から追い出されて帰れなくなってしまうこともあります。おまけに外出すると交通事故や伝染病の危険もいっぱいあります。出来ることなら引っ越しを機会に室内飼いにする事を考えてみてはいかがでしょうか。

もちろん外出することに慣れてしまっている猫にとっては室内だけの生活は単調で退屈から、問題行動を起こす場合もあります。十分に刺激のある環境を作ってあげる必要があります。

私は猫を連れての引っ越しを何度も経験していますが、最初は怯えていても1週間もたてば随分慣れて、2週間目には何事もなかったかのようにお気に入りの場所を見つけてのんびり顔を洗ったり、毛づくろいをしたりしています。

このペーパーは株ベツ・ベツ社が提供する
PET LOVERS' FORUM (<http://www.pet-vet.or.jp>)で、
もみの木動物病院 村田香織先生が提供されたものを一部改編して作成しております。

イラスト著作：くぼじょうこ



このペーパーは下記当院のインターネットホームページで24時間無料で取り出せます。また、ホームページには他にも様々な情報が掲載してありますので、ぜひご覧ください。



Copyright (C) 2001 Tatsuya Fukuyama DVM, AFP IKI ISLAND VETERINARY CLINIC.
Tel 0920-47-6767 Fax 0920-47-0350 e-mail: foffice@bronze.ocn.ne.jp
<http://www.ikikoku.com/pet.html>